環境マネジメント

クボタグループは、クボタグローバルアイデンティティや環境宣言に基づいて、各拠点・事業部門などバリューチェーン全体で業務運営を行うため、環境マネジメントシステムを体系的に整備しています。さらに、拠点・事業部門の活動形態に応じた環境マネジメントを推進しています。特に、生産拠点では、エネルギーや廃棄物などの環境負荷が大きく、大気汚染や水質汚濁のリスクがあります。それらに適切に対応するため、ISO14001やEMASをベースとした環境マネジメントシステムを構築し、決められたルールに基づいた業務運営と環境保全活動の継続的な改善につとめています。

環境法令遵守状況

環境法令を確実に遵守して環境事故を未然に防止するために、環境保全に関して定めた規定類に従って業務を運営しています。

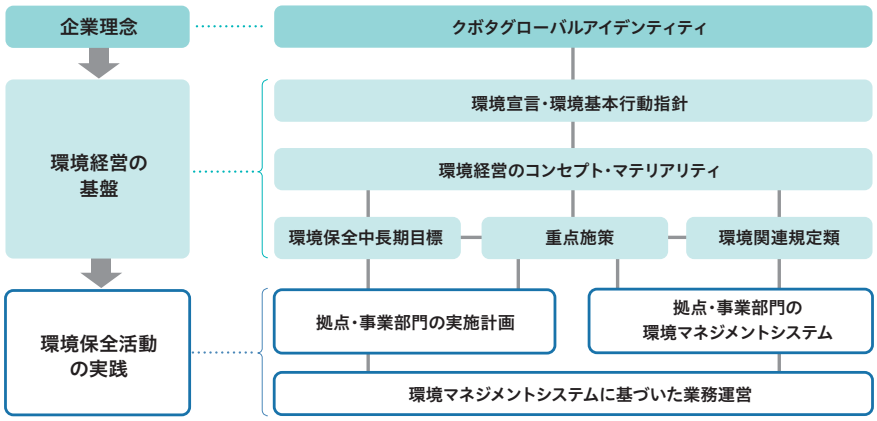
排出ガス・排水・騒音・振動などについては、生産拠点ごとに法律や条例の規制値より厳しい自主管理値を設定して徹底した管理を実施し、環境関連法規制の不遵守や苦情があれば、速やかに関係行政機関と本社に報告する体制をとっています。

また、拠点における環境保全の仕組みや活動内容が、適正に実施されているかを確認する環境監査や、環境リスクの状態を明確にして改善につなげることを目的とした環境リスクアセスメントを毎年実施することによって、環境法令違反や環境事故の防止を図っています。

しかしながら、2020年には国内でばいじんの大気排出基準超過が1件、フロン類の大気放出が1件、廃棄物の不適切処理が1件、海外で排水の規制値超過が1件発生しました。これらについては、周辺環境への影響を調査するとともに再発防止に取り組んでいます。なお、罰金や罰則の適用はありませんでした。

クボタグループの環境マネジメントシステム

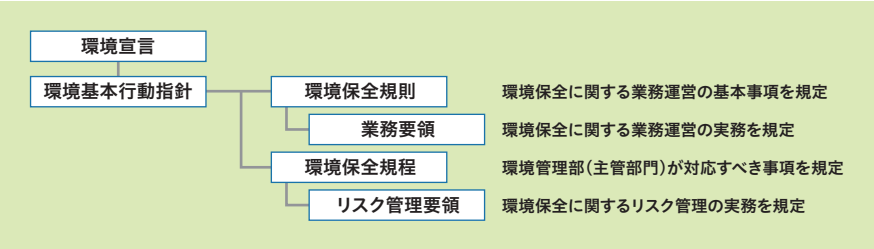
以下の図は、クボタグループの環境マネジメントシステムを体系的に示しています。



環境関連規定類

クボタグループでは、内部統制システムに基づいて、クボタ、すべての連結子会社、および環境マネジメント上で重要性が高い一部の持分法適用会社を対象に、環境関連規定類を定めています。

規定類の構成は以下のとおりです。



これらの規定類は、事業環境や法令の改定などに合わせて毎年見直しを行っています。また、グループ内のポータルサイトで最新版を掲載し、世界中の従業員が参照できるようにしています。

環境監査

国内グループの生産拠点・サービス拠点・オフィス・建設工事部門・維持管理部門および海外グループの生産拠点に対して、環境管理部が書面監査に実地監査を交えた環境監査を毎年実施しています。

また、生産拠点では、この環境管理部による環境監査に加え、各拠点でも内部環境監査を毎年実施し、環境管理状況をセルフチェックしながら環境管理レベルのさらなる向上につとめています。

すべての監査結果は、全社内部統制システムに従い、全社リスク管理委員会にて社長および経営層に対し報告しています。

2019年の環境監査の様子
Kubota Baumaschinen GmbH（ドイツ）
*コロナ禍により2020年度は実地監査を実施しておりません。

2020年度環境監査実施状況

・対象拠点数：271（258拠点および農機販社13社）

・監査項目数：29項目（維持管理部門）～52項目（サービス拠点）
　　*詳細は下表のとおり

・監査内容　：水質・大気管理、騒音・振動管理、廃棄物・化学物質管理、温暖化防止、異常時・緊急時対応、環境マネジメントシステム

環境監査の実施状況

		生産拠点	オフィス	サービス拠点		建設工事部門	維持管理部門*2	監査拠点数合計
				農機販社	その他			
国内グループ	監査拠点数	24	73	13社*1	91	44	8	253
	監査項目数	47	41	52	52	38	29	
海外グループ	監査拠点数	18	–	–	–	–	–	18
	監査項目数	31						

*1 農機販社は拠点単位ではなく会社に対して実施
*2 環境プラントの運転やメンテナンスを事業として行っている部門

環境リスクアセスメント

生産拠点の環境関連設備の機能や管理方法等から、設備に存在している環境リスクを評価し、対策が必要であると判定した設備については、環境リスクが受容可能なレベルとなるように、設備対策、管理対策を強化するリスク低減活動を推進しています。

環境監査と環境リスクアセスメントという視点の異なる2つの活動を並行して行うことにより、さらなるリスク低減につとめています。

環境リスクアセスメントの様子
クボタ筑波工場

環境パトロール

各拠点では、環境事故や環境関連法違反につながる状態がないかを、拠点全体にわたってつぶさに確認する環境パトロールを実施しています。環境パトロールで、異常の原因となり得る状態を早期に発見することにより、環境リスクの低減につとめています。

環境パトロールの様子
クボタ堺製造所

異常時・緊急時訓練

各拠点では、事業活動における環境リスクを特定し、リスクごとに対応手順を定めてリスクの極小化につとめています。

さらに、環境事故やそれにつながる事態が発生した場合を想定し、周辺環境への影響を最小限に抑えるために、対応手順に基づいた訓練を毎年実施しています。

オイル漏えいを想定した訓練
クボタアグリサービス新潟事務所

廃棄物処理委託先・有価物売却先の現地調査

クボタグループの日本国内拠点では、廃棄物等（有価物含む）の適正処理推進のため優良認定業者に処理委託先をシフトしています。

また、産業廃棄物・専ら物の処理委託先、有価物の売却先の訪問調査について社内ルールを規定し、処理委託先が多い産業廃棄物については、クボタグループ独自の現地調査分担制度により、生産拠点・オフィス・販売会社などが調査を実施してきました。

2020年度はコロナ禍のため、訪問調査は自治体条例等で現地確認を要求されている拠点でのみ実施し、その他の拠点では、処理委託先の公開情報等による調査を実施しました。今後も適正処理推進のため実効性を高める調査を推進していきます。

グリーン調達

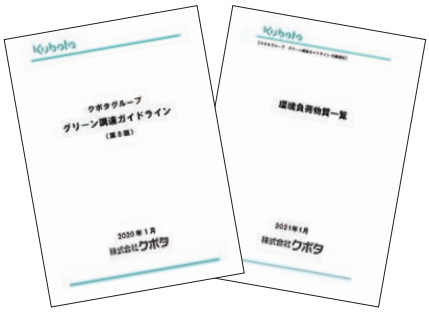
グリーン調達ガイドライン

地球環境・地域環境に配慮した製品を社会に提供するため、環境に配慮した活動を行うお取引先様から、環境負荷がより少ない物品を調達するようにつとめています。

これらの活動を確実に推進するため、「クボタグループ グリーン調達ガイドライン」を通して、グリーン調達についての方針をご提示し、お取引先様にご理解とご協力をお願いしています。

また、クボタと取り引きのある日本国内のお取引先様とは、「取引基本契約」を締結しており、契約を通じて環境関連法規の遵守と環境負荷削減の取り組みをお願いしています。

「クボタグループ グリーン調達ガイドライン」の詳細はこちらから
www.kubota.co.jp/sustainability/environment/procure/



クボタグループ グリーン調達ガイドラインおよび
付属資料【環境負荷物質一覧】
（日本語版、英語版、中国語版を発行）

グリーン調達に関する表彰制度

クボタグループが調達する物品（材料・部品・設備など）について、環境保全の分野で顕著な貢献が認められたお取引先様を表彰する「グリーンサプライヤー表彰制度」を2015年度より開始し、毎年表彰を行っています。

この表彰制度は、「クボタグループ グリーン調達ガイドライン」に基づき、クボタグループに供給いただいた物品およびお取引先様が取り組まれた環境保全活動を、省資源や省エネルギーなどの観点から定量的に評価し、特に優れた事例に対して表彰を行うものです。

2020年度は、日本国内のお取引先様より応募いただいた128件の環境保全活動事例の中から、特に活動成果が優れた12事例を表彰し、うち1件を最優秀賞として表彰しました。

本制度は、2018年度よりグローバルに展開し、海外拠点においても表彰を行っています。今後もグリーン調達につとめ、お取引先様とともに環境に配慮した活動を推進していきます。

2019年度表彰式の様子（2020年1月）
* コロナ禍により2020年度の表彰式は実施しておりません。

サプライヤー管理

クボタグループは、環境経営を支えるサプライヤーと共同で環境保全の取り組みを推進しています。

具体的な活動例として、久保田農業機械(蘇州)有限公司(中国)では、調達部品の供給停止リスクを抑制するために、既存のサプライヤーに対して環境法令の遵守状況を確認する「環境パトロール」を実施し、発見された改善点への取り組みを進めていただくようお願いしています。また、新規サプライヤーに対しては、事前に環境法令遵守状況のパトロールを行い、法令遵守が確認できたサプライヤーのみ新規に採用をすることとしています。

環境教育・啓発

2020年度の環境教育実績

クボタグループ社員を対象に環境教育と意識啓発を実施しています。階層別研修、専門教育、一般教育などの従業員教育に加え、外部団体の環境教育への協力なども行っています。

分類	教育・研修	回数	受講人数	概要
階層別教育	新入社員研修	1	184	地球・地域環境問題とクボタの環境保全活動
	新任作業長研修	2	40	クボタの環境管理と作業長としての取り組み
	新任職長研修	1	19	クボタの環境管理と職長としての取り組み
	経営幹部向け 安全・環境・品質フォーラム	1	180	藤本 悟氏(ダイキン工業(株)CSR・地球環境センター室長)による講演「ダイキン工業のグローバルサステナブル経営」
専門教育	廃棄物管理<基礎>	1	20	廃棄物処理法と処理委託契約・マニフェスト演習など
	ISO14001 環境監査員養成	2	33	ISO14001規格・環境関連法と監査技法
拠点教育	廃棄物管理	1	60	浄化槽の設置・管理業務における廃棄物管理
	フロン管理 (eラーニング)	1	3,563	フロン排出抑制法の改正内容とクボタグループにおける対応
	環境リスク感性向上 (eラーニング)	1	1,608	環境リスクを鋭敏に感知するためのトレーニング
計		11	5,707	

経営幹部向け安全・環境・品質フォーラム(講師:藤本 悟氏)

環境月間レポート

クボタ環境月間での従業員の意識啓発活動

クボタグループでは、毎年6月を環境月間と定め、従業員の環境意識向上を目的とした様々な啓発活動を実施しています。2020年も前年に引き続き「プラスチックごみを減らそう！」をテーマに掲げて活動を実施しました。

各事業所で、ゴミ分別の徹底、エコバックの配布によるレジ袋の削減、マイボトル持参でペットボトル廃棄量の削減、売店などの共有スペースを利用しての意識啓発ポスターやスローガンの掲示などの様々な活動を行いました。

今後も環境月間活動を通じて、従業員の環境意識向上につとめていきます。

環境月間ポスター（2020年）

環境功績賞

クボタグループでは、環境保全に顕著な貢献があったグループ・個人の活動功績を讃えるとともに、グループ社員の環境保全意識の高揚と環境保全活動の活性化を図ることを目的に、環境功績賞の表彰を行っています。

2020年度は、生産部門、非生産部門、製品開発、教育啓発の4区分を対象として環境保全活動の評価を行い、省エネルギー、廃棄物削減、VOC削減、環境リスク低減、環境配慮製品の開発などで成果のあった21件を表彰し、うち7件を優秀賞に選出しました。

今後も、地域や地球環境保全に貢献する優秀な活動を表彰し、その内容をグループ内で共有することを通じて、環境保全活動の活性化を図ります。

2020年度環境功績賞　優秀賞

対象	会社・所属	テーマ
生産部門	KUBOTA Group in Thailand（タイ6拠点）	Energy Just In Time【One Kubota In Thailand】
	久保田農業機械（蘇州）有限公司	ソーラー発電設備導入
	Kubota Manufacturing of America Corporation	Energy Savings/Airborne Pollutant Reduction through the development of more efficient paint hangers
非生産部門	ケービーエスクボタ株式会社	競合メーカー同士の共同輸送による輸送便の効率化と環境負荷軽減
製品開発	作業機事業部　移植機技術部	乗用形田植機　NAVIWEL　NW8S-GS
	作業機事業部　収穫機技術部	アグリロボコンバイン　WRH1200A
	環境事業部　環境プラント技術部	高効率二軸スクリュープレス脱水機　SHD-030W～090W

2020年度環境功績賞　受賞一覧

対象	区分・件数
生産拠点	優秀賞3件、奨励賞7件
非生産拠点	優秀賞1件、奨励賞1件

対象	区分・件数
製品開発	優秀賞3件、奨励賞5件
教育啓発	教育啓発賞1件